

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○新学習指導要領実施に向けた着実な準備と円滑な導入 ○「自ら未来を切り拓く人材」の育成に向けた継続的で一貫した意識付け・動機付けの実践	①新教育課程の実施に向けて必要な検討や調整に組織的に取り組む。 ②プログラミング教育研究推進校として、プログラミング教育の推進に引き続き取り組む。	①教育課程検討会議を中心に、内容の詳細や実施方法を検討する。 ②教科「情報」や他の教科での授業研究や研修を通じてプログラミング教育を推進する。	①新教育課程の実現に多くの職員が積極的に携わることができたか。 ②授業研究や研修は行われたか。論理的思考力や協働して問題を解決する能力は育めたか。	①実施後の問題点確認など、カリキュラム・マネジメントを適切に実施する。 ②次期プログラミング教育の目標と計画を立て、一人一台端末の教科の特性を生かした活用方法を研究する。	①授業評価アンケート結果によれば生徒の満足度が高いレベルで維持されている。 ②新指導要領やカリキュラム・ポリシーの考えに向かう活動が進むことを期待したい。 ③国語、地理、含んだプログラミング教育の導入は教育活動改善につながると思われる。	①新教育課程の実施に向けて必要な検討や調整はほぼ完了した。半期科目など新たな試みが円滑に実施されるよう運用上の工夫が必要となる。 ②9月の職員研修、12月の公開研究授業等を通じてプログラミング教育推進の裾野は広がった。研究指定の継続を受け、新たな3年間の研究計画を策定する必要がある。	①新たに策定したスクール・ポリシーについて、掲げた教育方針の実践状況を各教科やグループが確認するなどして、組織的な推進を図る。 ②各教科の特性を生かしながらプログラミング教育を推進する。1人1台端末や Google Workspace for Education の有効活用に組織的に取り組む。	①検討会議を中心に実施に当たった問題点を洗い出し、最終調整を行った。 ②職員研修、公開研究授業を実施し、授業を通じた論理的思考力や協働による問題解決能力は向上が図られた。
2	生徒指導 ・支援	○様々な生徒の状況把握に努め、個々に対応した支援教育の充実を図る。 ○行事等を通じて豊かな心と健やかな体を育む。	①新入学生等の状況を確実に把握し、個別支援の継続と充実を図る。 ②新しい生活様式を踏まえた行事等の実施と充実を図る。	①生徒情報を職員全体で共有し、課題のある生徒にはきめ細かく対応する。 ②感染防止に配慮し行事等の工夫を図る。新たな行事等の配置を検証する。	①情報共有はなされたか。ケース会議、校外連携等で支援の充実が図られたか。 ②感染防止対策は十分だったか。新たな行事等の配置は検証されたか。	①コロナ禍で心身に不安を感じる生徒が増えているため、様々なケースに対応する必要がある。 ②生徒会行事は生徒が安全かつ十分に参加できるよう実施時期等の検討を行う。	①いじめなどのトラブルは起きていないのかが気になる。 ①心に悩みを持つ生徒がコロナ禍でどう変化したかに興味を持つ。 ②生徒に自主性、責任感を持たせて行事を無事終了させたことは生徒達の自信、精神的糧になったのではないかと。	①教育相談チームの主導で情報の共有や連携を進め、支援を成功させた。ケースによっては支援内容を検証し、今後の対応の参考とする必要がある。 ②感染症対策と生徒の創意工夫を両立させ、体育祭・文化祭を成功させた。合唱祭は2年連続の中止を余儀なくされ、今後の継承に課題を残した。	①支援の際にはコロナ禍が生徒のメンタル面や人間関係に及ぼしている影響を考慮する。必要とされる支援が多様化している現状に柔軟に対処していく。 ②行事の実施に当たっては、感染症対策を徹底し、内容や時期の工夫で充実を図る。途絶した行事の継承は委員会等を活用して生徒主体に進める。	①職員会議等で生徒情報を共有し、統一的に指導した。必要に応じてケース会議を開催した。 ②体育祭・文化祭は感染対策を織り込み計画・実施した。式典等も同様に対応した。
3	進路指導 ・支援	変化が速く予測が難しい社会を生き抜くためのキャリア観の育成に向け、意識付け・動機付けを徹底し、進路指導の充実を図る。	生徒の進路実現をきめ細かく支援するとともに、現代社会の課題や自身と社会との関係性向き合わせ、生徒のキャリア観育成を図る。	大学出張講義など進路実現を支援する機会や情報提供を充実させる。外部講師による講話などを通じて生徒の意識向上を図る。	進路実現のための機会や情報提供は十分に図られたか。適切な講師選定や生徒の意識付けはなされたか。	コロナ禍対応として、オンラインや動画配信等により行った今年度の各種ガイダンスのメリット・デメリットを整理し、生徒の進路意識を高めるより効果的な方法を研究する。	・ガイダンスに卒業生から常連の講師を選任するも一法だろう。 ・生徒は社会との関係で適性や進路を考えているようだが、具体的な学部・学科の選択動向についても知らせていただきたい。	当初予定の各種ガイダンスはオンライン実施や資料配信による代替など大きな見直しを図った。今後も、コロナ禍の継続を前提にして、方法の工夫、内容の充実に取り組む必要がある。 大学からの手続き変更などに臨機応変に対応し、一定の合格実績をあげられた。合格・進学状況の分析が望まれる。	オンライン等で行った今年度の各種ガイダンスの利点を整理し、生徒の進路意識の向上やキャリア観の育成に役立てる。 本校生徒の志願動向や受験結果を分析し、全国の状況などとともに生徒等に情報提供して進路実現を支援する。 スタディサプリ等の進路指導支援ツールを有効に活用する。	1、2年次生を対象にした学部・学科研究のガイダンス、3年次生を対象にした入試状況提供等のガイダンスを、形式等を工夫して実施した。
4	地域等との 協働	生徒の社会参画の意欲向上に努め、地域等との幅広い連携を推進する。	就業体験や地域交流等の活動を通じて、社会参画の意欲向上を図る。	インターンシップ、ボランティア活動を促進する。三世代地域交流の再開を検討する。	インターンシップ、ボランティア活動への参加は広まったか。三世代地域交流は再開できたか。	感染症対策の観点から、実施趣旨や形態を変更するなど、実施に向けて新たな検討を加える必要がある。	・近隣清掃は同じ時期ではなく、春夏秋冬などに分散してはどうか。 ・近隣美化活動を計画から実施、報告まで自主的プロジェクトとして進めてはどうか。	地域参画型のイベントはコロナ禍の影響を受けやすく、今年度も中止、中断、見送りが相次いだ。コロナ禍の継続を前提にして、新たな視点で地域との協働を模索する必要がある。	社会参画の意義を改めて生徒に説くとともに、関係団体と十分に協議し、持続可能な地域参画の形態を提起、具体化していく。	コロナ禍でボランティア体験は中断し、三世代地域交流は見送った。地域貢献活動の近隣清掃は全年次行えた。
5	学校管理 学校運営	○事故・不祥事防止に向けた継続的な取組の実施 ○教員の働き方改革の実践に向けた学校管理体制の追求	①不祥事ゼロプログラムに則って、組織的に事故・不祥事防止に努める。 ②学校閉庁日の設定などにより教員の働き方改革を進める。	①不祥事防止啓発を継続的に行う。業務に応じた事故防止行動を常に心掛ける。 ②学校閉庁日を5日間設定するなどにより年次休暇取得を促進する。	①年間を通じて不祥事防止啓発は行われたか。職員は事故防止行動を適切にとっていたか。 ②学校閉庁日は予定通り設定されたか。年次休暇取得は促進されたか。	①事故・不祥事防止の着実な達成に向けて、業務遂行上の詳細なルールづくりが必要である。 ②時差出勤や在宅勤務の活用も併せ、年休取得促進と長時間労働是正に努める。	①学校管理について、予防のために企業で実施されている「ヒヤリ・ハット」などを参考にされてはどうか。 ②コロナ禍での教育活動の企画、実施は大変なご苦労で、負担が過度にならぬようバランスをとってほしい。	①わいせつ事案の根絶に向けて年齢構成を工夫した小グループでの討論や映像資料を用いた研修で取組みを深めた。グループ主催の不祥事研修を重ね、意識向上が図られた。 ②学校閉庁日は支障なく実施された。時間外勤務の多い職員に産業医面談を勧めるなどの対応をとった。年休取得の組織的な促進は進まなかった。	①すべての職員は「神奈川県公立学校教職員の倫理に関する指針」の確実な履行に努める。各グループは事故・不祥事回避に向けて、業務遂行に係わるルールを整備する。 ②効果的な教育活動には適切な勤務時間と健康管理が不可欠との視点に立ち、タイムマネジメント意識の醸成や職場環境の改善に努める。	①全職員でわいせつ事案防止に向けた討議を行った。全グループが2回、事故防止研修を主催した。 ②年間5日の学校閉庁を予定通り実施した。年休取得促進はあまり進まなかった。